

第2回 豊能町小中一貫教育等充実検討委員会 議事録要旨

- 1 日時：平成28年3月4日(金)午後2時30分から午後4時15分まで
- 2 場所：豊能町立西公民館 大会議室
- 3 次第
 - 1) あいさつ
 - 2) 本日の説明
 - 3) 議事
 - ①答申について
 - ②その他
 - 4) 答申の手交について
 - 5) あいさつ
 - 6) その他

出席者：委員20名（代理含む）、事務局7名

議事録要旨

- 1) あいさつ（会長）
- 2) 本日の説明（事務局）
- 3) 議事

（会長）

答申（案）の内容について事務局に説明を求める。

（事務局）

（答申（案）について説明）

（委員）

今日、答申することではないのか。

（事務局）

今日は答申案の案がとれるよう審議をお願いしたい。3月22日に答申を手交できるように進めていきたい。

（会長）

この答申案では、学校の配置を決めるような内容は入っていない。これまで皆さんから出た意見で、ポイントとなる点が入っているのか、表現の強弱はどうか等について、意見ををお願いします。課題を投げて、来年度以降に検討していただくような内容となっている。検討するポイントが合っているかについて見ていただきたい。

【3 現状】について

(副会長)

「3 現状①」の表は数字だけだが、この数字をどうとらえるのか、現状認識の入れる方がよい。この先、どれくらい減って平成32年にはクラスがどうなるのかも含めて現状の数字の理解に関することを表の後に必要だと思う。

(会長)

カリキュラム部会では、東地区は小中を一つにするのは理にかなっている、西地区は現状から急に再編するには少し拙速ではないかという意見があったと思う。

(委員)

クラス数では、西地区は統合になるので小学校を1つにすれば、西地区全体としてのクラス数が減り、教職員数も減っていくことから、慎重に検討する必要があると思う。

(会長)

以上の様なことが、カリキュラム検討部会で意見が出ているので、答申に入れることとする。

(副会長)

「3 現状①」の小学校の表だが、H27との比較欄は、どこの項目と比較しているのか。

(事務局)

H27の東西の合計児童数697人との比較である。①の表の下に、この表の現状認識の文言を追加する。

【4 小集団での課題と考えられる面】について

(会長)

小集団の課題で皆さんが懸念に思われ、部会で出た意見が反映しているかどうか見ていただきたい。

【5 再配置での課題と考えられる面】及び【6 施設の在り方について】について

(副会長)

「現状の学校の維持し」という言葉をどう理解するのか。現状の学校教育の水準や質を維持しつつ、小集団の良さを大切にすると捉えるのか、再配置前の学校の現状と捉えると現状を変えないとなる。再配置も現状維持も含めて検討の対象としていたので、この文言はそぐわないのではないか。

(会長)

地域には学校を残したい思いはあり、地域とのつながりと集団規模の二つがポイントとなる。

(委員)

この時出された意見は現状の学校の数を維持し、小集団の良さをそのまま維持するという話だと思う。

(副会長)

そこを少し明確に、再配置には反対の意見もあったとすることではないか。

(委員)

最初の意見の所で、「東地区での効果が期待できない」という意見はなかったのではないか。小中こども園を中学校の校舎にまとめるという意見や、小中をまとめる意見はあったと思うが、効果が期待できないという意見はなかったように思う。

(委員)

「1はじめに」では、過去の審議会や委員会からの平成21年度と平成25年度の提言では、西地区に関する提言がなされているにも関わらず、この「6 施設の在り方について」では、東地区から最初に言及しており、その当たりの整合性を考えると、なぜ東地区がこのテーブルに乗ってきているのか、この内容では理解されにくいのではないか。それなら、「1はじめに」の中で、東地区のことも含めて検討する内容にしておけばよい。平成26年度の「今後の小中一貫教育に関する方向性」で西地区の文言がとれて、東地区も入っていると類推はできるが、ここでいきなり東地区のことが出て、効果が期待できないでは理解しにくい。

(委員)

最初に西地区のことを書いているのに、なぜ東地区のことが入っているのかと私も思う。

(会長)

そもそも、西地区の再配置について検討をはじめたと思うが、本来どのような姿であるべきかと考えたときに、豊能町全体で幼保から小中まで一貫した教育を検討する話になってきたことを、前提に書いておく。ここで、東地区では効果が期待できないとは、東地区の中学校は小規模なので1つに統合してほしい意見があったことからすると、東地区だけで小中一貫だと、人間関係やクラブの選択枝の広がり期待できないということを書くことが必要だ。

(副会長)

この書きぶりで混乱すると思うのは、小中一貫と統廃合が一緒に書かれている。ここは、施設の在り方なので、東西地区を1つにする、東地区はもともと小学校と中学校が1校なので小中一貫でそのまま西は統合して1校にする、何も変えないの3案があったと思う。それを最初に3つの柱として出しておき、その他の配慮でスクールバスなどをあげる。もともと西地区を再配置する話で、東地区も含めた東西を1つにする案もあったということで整理をすればよいと思う。

(委員)

平成21年度と平成25年度の提言をもとに、平成26年度に教育委員会が豊能町全体の教育の方向性についてまとめた。その方向性について、この検討会が諮問を受けたことをもう少し丁寧に書いてもらいたい。

(会長)

その点を「1はじめに」の中でしっかり位置づけを書いておく。再配置が本来の目的ではなく、小中一貫の推進と充実が目的であることを強調する。それを踏まえて再配置はその中の1つであるとした方が、誤解がないのではないか。

(副会長)

案がもう1つあった。(1案)全町で1つの小中連携校をつくる。(2案)西地区は統合して1つの小中連携校、東地区は現状の形で小中連携校。(3案)現状の学校数を維持して小中連携を進める。(4案)まずは東地区で先行して小中連携校を先につくって、西地区はその後順次検討する。その4つの案が出ていたと思う。

(委員)

小中連携校というのは、隣接型や分離型と意味なのか。小中一貫校とは違う意味の小中連携校なのか。

(会長)

教員はなるべく減らさない方向でいきたいということ。

(副会長)

統廃合なら小中一貫校になる。現状の学校数を維持したままであれば、小中連携を進めるという意味である。2つ目の案は、西地区は統合して小中一貫校、東地区も小中一貫校とした方がよい。

(委員)

教育委員会のもともとの案は、東西地区それぞれ分離型の提案であったのではないかと。

(事務局)

10月8日の第2回教育環境部会で(ア)～(オ)の5つのパターンが示され、方向性としては(イ)の吉川中学校区に小中一体型、東能勢中学校区に隣接型を示していた。本委員会の中で吉川中学校区の分

離型の意見もあった。

(副会長)

教育委員会から様々な形で出されたが、その後、様々な議論をし、案としては、1つ目は全町で1つの小中一貫校、2つ目は西地区は統合して小中一貫校、東地区も同様に小中一貫校。3つ目は、現状の学校数は維持する。その中で小中連携、隣接型、施設はそのまま、東西地区それぞれで小中連携を進めていく。その3つの案以外に、まず東地区を先行して小中一貫校として立ち上げる。西地区は現状維持のまま小中連携を進めつつ慎重に検討していく。これくらいの4つのまとめ方ではどうか。

(会長)

この4つの案を出しておいて、それぞれの意見や留意点を書くことでまとめることとする。

【7 今後の課題として】の項目について

(会長)

小中一貫教育に関わらず、まちの魅力についての意見も出たのでしっかりと書いておきたい。

(副会長)

文面の中ほどの、「さらには」の後の「子どもが増えるような取組」がわかりにくい。子育て世帯の移住を誘引するとか、子育て世代の方にもっと豊能町に来てもらう。そのためには魅力のある学校をつくり、それをPRしていくことが議論されていたと思う。そのことを書いてもらえればと思う。

(会長)

この答申が出たからといって、急に再配置が進むわけではない。学校間の交流や小中間でのカリキュラムの連携を推進するというのが豊能町の特色である。再配置については、具体的に進むかは町の考えもあるので、取り組むうえで、押さえてほしいことを答申で示すのがひとつのねらいである。できるだけいろいろなことを入れておきたいと思う。再配置されなくても、カリキュラムの充実、連携・交流ということで、子ども達の選択肢の幅を広げることが現状でも出来るのではないか。再配置が進むのであれば、これらのことを活かしながら進めてもらうのが、答申の一番のねらいだと思っている。

(委員)

副会長が言ったように、子育て世代の教育で、豊能町に来てほしいポジティブな表現がよいと気がするが、この文面の最後の「人口が流出しない町づくり」の表現は、高齢者ばかりになるイメージになるので、教育環境も自然環境も良いような前向きな表現がよいと思う。

(会長)

人口の流出ではなく、子育て世代の移住を進めるような魅力的なまちづくりのような表現を検討する。

【8 おわりに】の項目について

(会長)

来年度から具体的な視点で施策を進めてほしいような内容でまとめたいと思う。答申としては、具体的に何かをするというものではないが、小中連携や小中一貫の良さを追求することで教育の充実を図る。再配置に関しては、皆さんの意見を踏まえて進めてほしいと思っている。

(委員)

最後の文章だが、町内の学校が一つになっていくように進めてほしいと読めるので、町内の学校のつながりが深まっていくように、とか違う表現にならないのか。

(会長)

全体で1つの小中一貫校の意味ではないように、つながりが深まっていくような内容にしていく。

(委員)

1つになっていってはダメなのですか。

(委員)

よいとか駄目ではなく、いくつかの案があるなかで、現状の学校も残す案も書いてあるのに、1つになっていく表現では矛盾するのではないのか。

(委員)

教育環境部会とカリキュラム部会があるので、それを1つにまとめるのは仕方ないと思うが、保護者の観点からすると最後の部分でも、豊能町ならではの教育や豊能町の子どもに何ができるのかの話なのに、教員の資質の向上とか教員が減少しないようにとか、どちらの立場にたっている答申なのかよくわからない。教育環境部会とカリキュラム部会を分けて答申はできないのか。保護者側の要望と学校関係者の思惑が入り混じっていて、違和感がある答申である。

(委員)

入り混じっていてあたりまえではないのか。ここにいる方はそれぞれ選ばれてきている方なので、それを1つにまとめるのは難しいと思う。ここで行き詰っている意見があり、ひとつのことをやろうとしても意見がまとまらないこともあり得るのだから、それはそれで構わないと思う。無理やりどちらかに寄せる必要はないと思う。この様な結果になりましたで十分だと思う。それを踏まえて、翌年度に検討するのであれば、これをもとにスタートとすることで問題ないのではないのか。

(委員)

PTAとして引継をどうしていいのかわからない。来年度もこのような集まりがあるのか。

(事務局)

今回、これまで出た意見のまとめとして答申案を示しているが、その意見の確認をしていただくのが今日の目的である。

(会長)

意見がひとつにはまとまってないが、答申はする。これから先、どうなるのかわからないことは多くある。事務局もわからないことがあると思う。ただ、事務局だけでは出てこない考えなどが各部会で出たと思う。色々な思惑や事情があり、まとまりがないのかもしれないが、例えば、1つにしないという政策にしても、学校規模を考えた時に小規模の良さがある。教員数にしても、数だけで削減される怖さもあるので、1人でも多く教員を確保して柔軟性をもっておかないと、個々に応じた対応が必要な子どもが増えている。小さな学校でも個別のサポートが必要な子どももいる。サポートがあれば、生き生きとしているのに、手が足りないからほったらかしということがないようにと思うと、子どもにとっても、先生にとっても、良い環境を考えた時に、学校数の維持もあるのかもしれない。再配置になったとしても、その中で人員を充実させて、1人1人を大事にできないかということは考えていかないといけない。それが、1つにすることで効率的に出来るのか、バラバラにして地域に密着していた方が出来るのか、一概には言えない。急に決まるものでもないと思っている。ただ、周りから見ているとまどろっこしいと思うが、拙速にならないようにしてほしいと思う。次年度に向けて、どのように伝えていくのか皆さん心配だと思う。

(事務局)

答申については、修正する必要や盛り込むところがあるので、会長の方で最終的にまとめていただき、3月22日に教育長へ答申を手交していただくことになる。来週中に誤りや文章表現等について何かあれば事務局に連絡してほしい。近隣市町でも様々なやり方で小中連携に取り組んでいる。豊能町では就学前と義務教育が連携しやすいような状況にある。来年度から義務教育学校の制度ができるが、子ども達の育みの中でいろいろな課題を義務教育の一貫したスムーズな流れの中で対応することが大切だといわれている。その部分の推進や充実に取り組んでいかないといけないので、保幼小中学校の連携の仕組みをつくっていききたいと思っている。来年度は一貫教育や連携教育について、教職員だけでなく保護者や地域の方も参加しやすいような研修や勉強の場などを設けたいと思っている。

(会長)

来年度はこの様な形はないのか。

(事務局)

この形は予定していない。出来上がった答申は皆さんに配布する予定です。このような会議の参加については、来年度への引き継ぎは不要です。

(会長)

この答申は公開されるのか。

(事務局)

ホームページで公開する。

(委員)

この先、現状のまま何も変わらないような場合もあり得るのか。子どもの人数が減ってきて、小中がまとまるのではないかと考えている方もたくさんいる。急がないといけないという思いがあったが、まだ勉強するといわれているので、そのようなこともないのかなと思う。

(会長)

お金がなくなると思うので、急がないといけないとは思う。

(委員)

そのわりには、急いではいけないような微妙な感じで、どうなんだろうと思う。

(事務局)

最初、事務局が提示した学校配置のパターンは4つ以上あったが、その中から議論を重ね、4つのパターンが豊能町では考えられるのではないかとなった。来年度はこの4つのパターンの質的な検討を進めていく方向になると思う。ハードではなくてソフトの部分では、先を見通した教育をしていかないといけない。勉強はその部分であり、教員や指導者の部分になってくる。いずれのパターンでも連携教育、一貫教育は進めていくことになると思う。

(会長)

じわじわとは思うが、来るときは急に来るかもしれないので、心の準備はしてほしいということ。

来年度以降は、小中間の子どもや先生間の交流が増えていくのではないか。そのような予算やシステムをつくるなど、教育委員会の取組みを期待する。

以上のような形でまとめ、3月22日に教育長へ答申したいと思います。